

平成28年度 国東市：大分県学力定着状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

- ・偏差値は知識・活用ともに50を上回った。昨年度に比べると、活用が昨年度より0.7ポイント上回った。

偏差値	小学校国語		
	知識	活用	全体
国東市	50.6	50.5	50.6

- ・領域別では「読むこと」のみ目標値に届いていないが、他の領域は目標値を上回っている。
- ・領域別の偏差値を見ると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題があるとみられる。
- ・問いの内容別に見ると、「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」において正答率が目標値に届いていないが、他の内容では目標値を上回っている。

領域別の正答率と偏差値

領域	正答率		偏差値
	国東市	目標値	
話すこと 聞くこと	76.7	73.3	49.3
書くこと	56.7	55.0	51.2
読むこと	66.9	69.4	48.4
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	78.4	70.4	52.2

※目標値と偏差値50に達していない項目に網かけ

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 話すこと・聞くこと (1)

①話し方の工夫に気をつけて聞く。(1) (2) 正答率71.3%・目標値75.0%【知識】

- ・話し方の工夫を判断する力をつけるには、ある程度まとまった内容について、話したり聞いたりする学習が効果的である。また、話し合い活動等で事前に「話す」「聞く」時の視点を指導しておくことが必要である。(例「理由の言い方や複数ある場合の言い方」「賛成・反対の立場を明らかにする言い方」「付け足しの言い方」など)

(2) 読むこと (4 物語文 5 説明文)

①登場人物の気持ちを読み取る。(4) (1) 正答率72.8%・目標値75.0%【知識】

(4) (2) 正答率70.8%・目標値75.0%【知識】

(4) (3) 正答率56.9%・目標値60.0%【知識】

(いとうみく「5年2組横山雷太、児童会長に立候補します!」より)

- ・3問とも文章全体を素早く理解する力と、必要な部分を的確に判断し詳細に読む力の両方が必要である。
- ・4 (1) 会話文から登場人物の関係をおさえた上で「なぜ、誰が、何に対してした行動なのか」を正確に読み取る必要がある問いであった。多かった誤答は、登場人物の関係や場面の状況を読み取れていなかったと考えられる。
- ・4 (2) あらすじをつかみ「中心人物が何に悩んでいるのか」を読み取る必要がある問いであった。多かった誤答は、問いに対する答えの根拠となる部分を探せていなかったためと考えられる。
- ・4 (3) 「指示語『そんな』が指す部分は何か」「『めいわくなだけ』という否定的な言葉が続く文脈はどこか」を読み取る必要がある問いであった。多かった誤答は、「きびすを返す」の意味がつかめていなかったことや、前後の命令口調の文を否定的にとらえてしまったことが考えられる。
- ・登場人物の気持ちを読み取る力をつけるためには、「読むこと」の単元において、学習指導要領の言語活動例「ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと」「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること」等を通して、登場人物の関係を示したり、人物の心情の変化を説明したりする学習を行う必要がある。
- ・実際の指導にあたっては、まず物語の設定や登場人物の関係、場面の状況等からあらすじをつかませる。

そして、会話文や気持ちを表す言葉などの叙述をもとに、登場人物の様子や気持ちに焦点をあてて読んでいくよう指導する。その際は場面ごとの読みではなく、物語の全体像を把握しながら必要に応じて叙述にたちかえり細部を読んでいくような言語活動が求められる。

- ・物語文の読みに必要な「あらすじをつかむ」「会話文や出来事などから登場人物の関係をつかむ」「人物の心情の変化をつかむ」言語活動、また「指示語の示すことを理解する」「語彙をふやす」といった基礎的知識を習得する言語活動を、各学年で年間を見通しながら行い6学年で系統的に力をつけていきたい。

②文章の内容を的確に読み取る。(5) (1) 正答率 57.9%・目標値 65.0%【知識】

(5) (2) 正答率 73.3%・目標値 75.0%【知識】

(澤口たまみ「なぜ? どうして? 身近なぎもん 5年生」より)

- ・この5に特徴的だったのは選択肢である。(1)は「もうまく」と「水晶体」(2)は「色を感じる点」と「明るさを感じる点」の大きく2つに分かれており、まずどちらを選択するかで答えは絞られていく。さらに本文を注意して読んでいくと正答がわかるが、目についた部分のみにとらわれると誤答を選択してしまうと考えられる。文章全体から、必要な部分(中心となる語や文)を素早く見付ける力が求められる。また、選択肢の吟味についてもあまり時間をかけずに判断できる力をつけたい。

③段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る。

(5) (3) 正答率 57.9%・目標値 65.0%【知識】

- ・段落相互の関係をとらえたり、まとまった分量の文章について話題をとらえたりする力が必要な問いであった。多かった誤答は、「目のしくみについて具体的に説明している部分をとらえられなかったため」「例文の後半部分『夜に活動する鳥と・・・』という言葉にとらわれたため」と考えられる。
- ・文章の内容を的確に読み取る力をつけるために、「読むこと」の単元において、学習指導要領の言語活動例「イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること」等を通して、それぞれの段落の中心となっている話題(トピック)は何かを捉え、自分の言葉で説明させる(要約をする、要旨を捉える)学習を普段の授業で行う必要がある。
- ・実際の指導にあたっては、キーワードを見つける、要約する、小見出し・大見出しをつける、接続詞などに注意する、全体構成を考えるなどが盛り込まれた言語活動の経験が大切である。また、新聞、記録文、リーフレット、パンフレット、説明書等、多様な資料を扱うような言語活動の充実を図っていかなければならない。

(3) 書くこと (7)

①指定された長さで文章を書く。(7) (1) 正答率 66.7%・目標値 70.0%【知識】

- ・メモにある情報を過不足なく記述する力を試す問いであった。7行から9行(121字から180字)で書くという条件に満たなかった理由として、「時間が不足したため」「必要な事柄はメモのどの部分か、理由はどこを指すのかを判断できなかったため」と考えられる。
- ・相手や目的に応じて書く力をつけるために、「書くこと」の単元において、学習指導要領の言語活動例「イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること」「ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと」等を通して、一定量の文章を書く学習が必要である。
- ・実際の指導にあたっては、日頃より同程度の文章に書き慣れさせること、話の中心は何か素早く判断し記述すること等に力を入れることも大切である。
- ・課題や条件に沿った文章を書かせる際の指導として、「全体としてよく書けているから○です。」とするのではなく、条件(文体、字数、必要な情報等)に沿って書けているかを丁寧に見て、過不足等があればどこをどのように修正すべきであるのかを理解させた上で、加筆修正させるという指導を行う必要がある。そうすることで推敲する力も向上すると考えられる。

(4) 言語の特質に関する事項について

①文の構成（連体修飾語）について理解している。

【3】(1)「花が」をくわしく説明している言葉
(正答率 60.0%・目標値 65.0%)【知識】

- ・校庭の・・・・・・・・・・・・ 2.1%
 - ・かたすみに・・・・・・・・・・・・ 17.9%
 - ・小さな・・・・・・・・・・・・ 60.0%
 - ・さいています・・・・・・・・・・・・ 20.0%
- (無解答なし)

- ・連体修飾語の問いに課題がみられた。
(昨年度課題があった連用修飾語の問いは、今年度大きな改善がみられた)
- ・連体修飾語と連用修飾語の違いをおさえた指導が必要である。文節数が多くない文を例文にして、修飾、被修飾の関係を感覚的に理解させるような指導も必要である。
- ・主語・述語・修飾語については、各学年段階に応じて適切に指導していく必要がある。

・漢字については、読み・書きともに目標値を上回った。漢字や言葉の学習については、繰り返し学習することで定着度が上がる。繰り返し学習できる環境を学校全体（家庭学習も含む）で整えることが大切である。

3 指導の改善のポイント

(1) さらなる言語活動の充実

- ・国語科は、児童に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。国東市でも言語活動を設定した授業改善が進みつつあるが、今後もさらなる言語活動の充実を図り、授業改善を推進していく必要がある。
- ・単元を構想する際、付けたい力とそれにふさわしい言語活動、教材はどのようなものかを適切に判断することが求められる。そのために、
 - ①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること
 - ②学習指導要領の言語活動例を確認すること
 の2点については早い段階で行っておく必要がある。(①は年度内に随時見直しをする)
- ・望ましい言語活動や付けたい力をイメージするために、国立教育政策研究所が作成した
 - *「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/>
 - *「小学校国語科映像指導資料～言語活動の充実を図った『読むこと』の授業づくり～」
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>
 等を参考にすることも非常に有効である。

(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- ・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等（書籍、新聞、リーフレット、パンフレット、説明書等その他のメディアからの情報）を用いることが必要である。
- ・多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見つける読みや、必要な部分のみを詳細に分析する読みの指導が可能となる。
- ・また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を活用し、多様な情報を関連づけて読むことの指導にあたる必要がある。学習指導要領の言語活動例を参考にし、情報を活用して、条件に応じて自分の意見や考えを表現する活動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場面を単元の中に位置付ける指導が求められる。

質問紙 「あなたはこの1ヶ月の間に本を何冊くらい読みましたか。」(単位は%)

	0冊	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10	11～20	21～30	31以上	その他
全国	5.3	17.3	19.7	16.4	11.1	11.3	9.8	4.1	4.7	0.2
大分県	9.7	16.3	15.4	13.1	8.2	11.6	10.3	5.7	9.4	0.5
国東市	5.1	18.4	15.3	15.3	7.7	11.2	8.2	7.7	10.2	1.0

・質問紙からは、1ヶ月で1冊も本を読まない児童の割合は全国・県より少なく、21冊以上読んでいる多読の児童は多いことがわかった。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手の児童の学力を育成する基

盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、豊かな思考には豊かな語彙形成が不可欠であり、それを促すという視点で読書指導を見直すことも必要である。

- ・不読者をゼロに近づけ、より一層本に慣れ親しませるために、一斉読書や教科の授業中に図書館の活用を推進していくことが大切である。

(3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準「B 概ね満足できる状況」を設定する。
- ・この具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。
- ・学習の見通しを持たせ、学習の意味づけをさせることは有効であることから、「めあてー振り返り」「課題ーまとめ」を提示したり考えさせたりすることが大切である。

(4) 国語科授業で取り組むべきこと

- ・国語科では、言葉で思考を深めることが必要である。また、どのように思考するのかをきちんと理解させるためにも、教科書の巻頭・巻末等にまとめられている学習用語は、その学年で確実に指導することが大切である。既習の用語は授業で使い、指導者があいまいな言葉を使わないようにする。(学習用語を常に見えるところに掲示し、理解を促す取り組みも有効である)
- ・言語活動の成果物を掲示・展示することも効果がある。作成したものを互いに見ることで、励みになるとともに、ものの見方や考え方が広がる景気にもなる。

(5) 学校全体で取り組むべきこと

- ・漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えたり、国語科だけでなく各教科のノートや家庭学習等、様々な場面で指導したりすることが望まれる。
- ・全校一斉読書や各教科及び領域において学校図書館を活用していく。また、学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を活用することも求められる(例 各新聞社から配信されているワークシートを短時間で行う等)。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館活用の推進をしなければならない。
- ・県「フォローアップシート」、くにさき地区研作成「フォローアップシート」等を効果的に活用する。